

# オープン市場短信 (2011年5月)

2011. 5. 13

## ◆ 4月のCP市場動向

4月のCP新規発行額は約3兆7400億円で、期落ち(約2兆7200億円: 当月発行分含む)を1兆円程度上回った(除く、ダイレクトCP・金融機関発行CP・ABC CP)。CPの月末残高は、14兆8651億円と前月比8,318億円増加した。3月末時点で、有利子負債圧縮を行なった企業(鉄鋼・輸送用機器・機械等)の復活発行が増加に寄与した。

発行レートの推移としては、レポレートの低位安定により足元現先レートが前月より弱まり0.10~0.105%近辺で出合ったことを受け、中旬までは横這い圏内で推移した。中旬以降、新発物の発行増とレポレートが若干上昇したこと等を受け、横這いから若干強含みとなった。

4月の新発(3M)物の発行金利は、最上位銘柄(a-1+格)で0.115%~0.125%、一般事業法人(a-1格)で0.116~0.130%、その他金融銘柄(a-1格)では0.122%~0.180%であった。

### 【格付け別の発行レート】

#### 4月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
a-1+(オペ適格)	0.113% ~ 12.000%	0.110% ~	0.115% ~ 0.125%
a-1(オペ適格)	0.114% ~ 0.134%	0.116% ~	0.116% ~ 0.130%
a-1+(リース銘柄)	0.114% ~ 0.120%	0.115% ~	0.120% ~ 0.123%
a-1(リース銘柄)	0.122% ~ 0.165%	0.119% ~	0.122% ~ 0.180%
a-2	0.158% ~ ケ0.35	— ~ ケ0.40	— ~ ケ0.50

### 《CPオペ》

CP等買入オペは、期末要因が剥落し前月オペよりも低下した。しかし、市場予測よりもやや高め落札平均レートとなっていることから、低位格付けやABC P等の高クーポンの応札が多かったようだ。3月末オペ残と比較すると、月末期日玉の持込が減少し、長めのターム物の持込が増加していたようだ。

買い現先オペは、見送りとなった。新年度入りし、マーケットでのセカンダリー売買が活発化し、業者の在庫も減少していた。

### 日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位: 億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取 利回り較差	平均落札 利回り較差	按分比率
4月14日	4月19日	3,000	5,840	2,985	0.015%	0.021%	54.8%
4月22日	4月27日	3,000	6,870	2,960	0.013%	0.018%	41.4%

(注) 下限利回り(年0.1%)からの利回り較差方式

## 《 ABCP 》

ABC Pの月末残高は、前月比274億円の小幅な減少に止まり、2兆4,058億円となった。

## 《 短期社債残高 》

業態別残高推移を見みると、一般事法では前月比16.20%、その金融法人3.76%、金融機関4.44%それぞれ増加となった。ABC Pは、1.13%の減少となった。

4月の証券保管振替機構での発行登録企業は488社、既発行企業はJ. フロントリテイニングが新規発行を行ったことから、延べ502社となった。

## 【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	4月末残高	3月末残高	増減
一般事法	37,509	32,280	5,229
その他金融	53,779	51,832	1,947
金融機関	33,305	31,889	1,416
( 政府系金融	500	0	500 )
( 銀行等	13,522	10,764	2,758 )
( 証券	19,283	21,125	▲ 1,842 )
ABC P	24,058	24,332	▲ 274 )
計	148,651	140,333	8,318

(注:買入消却分含む)

## 《 CP 現先市場 》

月中現先(S/N)レートは、期明け以降運用者が増加し現先運用ニーズが強まったこと等を受け弱含み、低位安定にて推移した。GWの大型連休越えも0.11%台前後で約定されていた。 月中平均レートは、0.105%程度。

## ◆ 5月のCP市場動向

5月中のCP償還額は約2兆6,900億円で、前年同月の償還額(約3兆5,300億円)を下回っている(除く、ダイレクトCP・金融機関発行CP・ABC P)。今月は、月中旬以降から賞与資金手当てや税払い等の資金調達ニーズが生じるため、期落ち比発行増となるだろう。

発行市場環境については、低位格付け銘柄でも一般銘柄と遜色の無い水準での発行が可能である等良化している。しかし、景気の低迷が長引くと予想される中、企業の運転資金や設備資金需要はさほど強まることなく、発行市場残高の低迷は当面続くと思われる。

今月の発行レートは、一般銘柄3M物では0.11%台後半~0.12%台半ばの動きを予想する。その他金融・リース銘柄(a-1格銘柄)の3M物では、0.12%台前半~0.16%前後を予想する。

## 《 CP オペ 》

日銀は、CP等買入オペを18日と25日に其々3,000億円オファー(買入日:23日・30日)する予定。玉不足や発行レートの低下もあって、前回オペよりも足切及び落札平均レート

は弱含むと思われる。また、日銀は4月25日に、6月のオペスケジュールを発表した。月2回のオペオファーを、3回のオファー（金額は3,000億円）として、頻度を高めた。買い現先オペは、今月は見送られるだろう。

《CP現先市場》

現先レートは、日銀の資金供給が引き続き高水準であることからインターバンク・レポレートが落ち着いて推移しているため、低位安定を予想する。月中は、0.09%台～0.11%割れでのレンジでの推移を予想する。

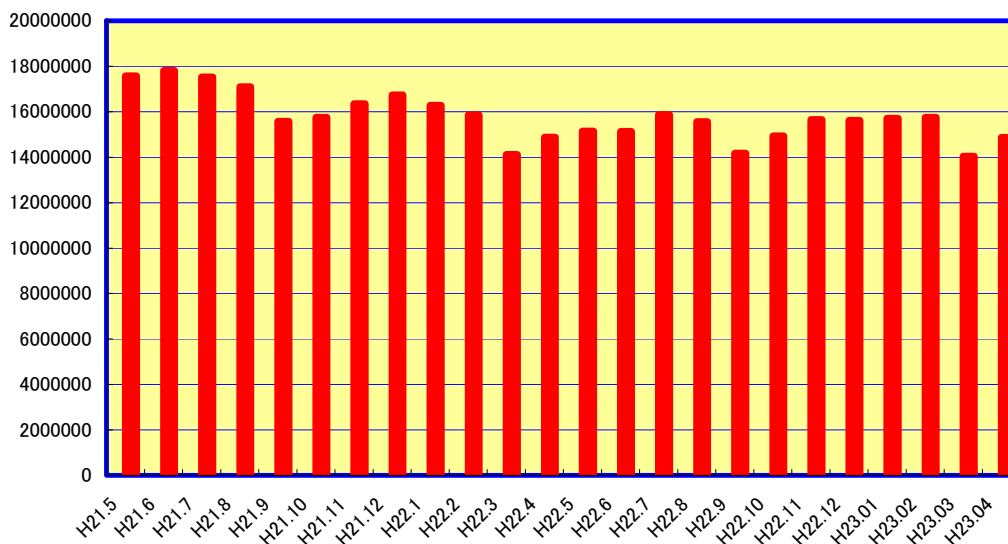
**参考資料**

**短期社債月末残高**（H22年5月～H23年4月）

発行登録企業：488社（発行実績あり502社）

**短期社債月末発行残高**

（過去2年間の残高を表示）



## 4 月末発行残高ベスト 20

### 4 月末発行残高上位 20 社

(単位:百万円)

	発行企業名	4月末残高	3月末残高
1	三菱UFJリース	827,000	833,000
2	三井住友ファイナンス&リース	754,600	721,400
3	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	671,920	602,760
4	東京センチュリーリース	584,700	583,900
5	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	435,500	459,360
6	三菱UFJモルガンスタンレー証券	420,900	438,800
7	みずほ証券	414,200	454,100
8	クレディ・アグリコル銀行	403,900	160,900
9	みずほフィナンシャルグループ	380,000	380,000
10	大和証券キャピタルマーケット	379,380	394,780
11	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	372,710	371,800
12	JXホールディングス	353,000	388,000
13	野村証券	348,500	379,500
14	興銀リース	327,900	330,000
15	芙蓉総合リース	280,600	265,600
16	新日本製鐵	266,000	320,000
17	オリックス	249,600	222,200
18	SMBC日興証券	238,800	339,800
19	シャープ	227,000	191,000
20	ジェイエフイーホールディングス	222,000	178,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会